

第43回 東洋交通労働組合定期大会



2016年10月16日(日)10時〜北赤羽区民センターにおいて『第43回東洋交通労働組合定期大会』が開催されました。

議長には鈴木正徳氏、書記には小野純一氏が任命されました。出席92名・委任状384通、定数の3分の2以上により大会が成立していることが宣言されました。

【菊池執行委員長の挨拶】

「この1年間で16人の仲間を増やすことができました。100人の加入があっても100人が辞めてしまう業界にあつて、なぜ組合員が増えたのか。新たに加わる人たちが加入して良かったと思う組合になるよう努力をしなければなりません。一人ひとりには弱い存在ですが、団結して要求を勝ち取っていく為に組合があります。もう一度原点を見直してほしい」と理解を求めました。

またライドシェアの白タク問題初乗り距離短縮運賃問題、改正タクシー適正化新法に基づく特定地域問題などについて言及し、経営が打ち出した活性化策の活性化策の11項目の施策に対し、中身も精査せず労働者の犠牲のもとにしか成り立たない施策には反対を意を表明しました。「今、業界は大変な状況にあることを認識してほしい。特に白タク合法化については我々の権利を無視してまで合法化する必要があるのか。同じ気持ちを持つ仲間たちと一緒に反対の運動を展開していきましょう」と呼びかけました。更に会社に対しては「無線システムの不具合で大変迷惑をかけているが、不具合を報告してもらわなければ改善につながらない。面倒でも報告をあげてほしい。そして白タクの方がましだとお客様から言われることがないよう品質の向上にも努めてほしい」と述べました。



日交労赤羽支部 曾我委員長
ライオン交通労組 大松執行委員長
全自交労連 伊藤実行委員長

大会には全自交労連・伊藤実委員長、ライオン交通労組・大松啓治委員長、日交労赤羽支部・曾我委員長が来賓として出席しました。

伊藤委員長は先の熊本地震に対するカンパ募金活動に感謝したのち、ライドシェアの白タク合法化反対について「政府の規制改革推進会議の議論など既成事実の積み重ねで来年の通常国会で審議されそうな、まづい状態になっている」と警戒感を示し、「政府の諮問会議に利害関係がある委員を起用する人選など倫理的にも問題だ。こうした問題を広く一般に配信し、正していくことが必要だが、業界だけではエゴと捉えられてしまう。市民会議のシンポジウム開催などを通じてライドシェアの問題点を検証し、発信していく取り組みが必要だ。市民運動会議を少なくとも全国の政都市レベルまでに引き上げていきたい。ライドシェア問題はタクシーだけでなく、バス、鉄道など地域の公共交通機関の存続にも関わる。何とか阻止していかねればならない」と協力を訴えました。

『2016年度活動報告』 『2016年度会計報告』

福島書記長より「2016年度活動報告」及び先日統制委員会決定した石田氏・小林氏について戒告処分した後、両名が脱退したという報告がありました。続いて菊池財政部長より「2016年度会計報告」があり、会計監査の大崎勝氏(2068)より会計監査報告がありました。

報告事項については満場一致の拍手で承認されました。

第1号議案

2017年度活動方針

- 『白タク合法化阻止』
- 『賃金労働条件の改善』
- 『組織の強化・拡大』

第2号議案

『2017年度会計予算案』

福島書記長より第1号議案についての提案、菊池財政部長より『2017年度会計予算案』の提案がありました。

【質疑応答】

●初乗り距離短縮運賃や事前確定型運賃が導入された場合、導入後の営収について会社側から細かい数字を出し、点呼などで発表するように申し入れて欲しい。(5788長野氏)

(執行部)「初乗り距離短縮運賃」は年明けには実施される予定です。社長が推進していることなので、会社から発表するということは難しいと思いますが、組合から数字を出すよう申し入れます。それができれば組合員には分かるようにしていきます。また、『事前確定型運賃』については問題点も多いので導入には反対をしていきます。

●春闘の解決一時金について、処分者に全く出さないというのは厳しすぎるのではないかと? また、1年以上在籍しているという基準を設けるのはどうでしょうか?(5788長野氏)

(執行部) 解決一時金というのは毎年組合から要求しているものではありません。『品質向上』に貢献した優良乗務員にアップするため差をつけています。来年の春闘解決時には再度配分方法について検討します。

